

中国・広州市における高齢者福祉施設(松鶴養老院、恩慈基督教護老院)の 現況報告

許 達* , 内藤 和彦**

A report of Present Situation on Aged welfare facilities in Guangzhou City

Da XU* and Kazuhiko NAITO**
(Received MARCH 15, 2017)

Population aging is a global trend, which has become a global scale social problem, as well as in China. The purpose of this report is to present the situation on aged welfare facilities (Songhe Nursing Home & Enci Christian Nursing Home) in China. In addition, this report will clarify some differences between Japanese and Chinese the aged welfare facilities.

Keywords : Aged welfare facilities , Guangzhou China , Living environment.

高齢者福祉施設 , 中国広州市 , 住環境

I. はじめに

日本では高齢者福祉施設の建築的研究が急速に進められ、その実践的成果は世界から注目されている。日本の高齢化が世界に先駆けて進んでおり、世界が追随するかたちになっている為である。しかし、その実践的成果のおおくが、日本固有の生活習慣と深く関連しており、必ずしも世界で役立つとは限らないとも言われている。

我々は中国を対象に日本の研究・実践成果の有効性を確かめる研究を進めている。その過程で中国・広州市の2高齢者福祉施設の踏査を行った。中国の高齢者福祉施設の現況についての報告事例は少なく、その内容・実態はあまり知られていない。こうしたことから、ここでは、踏査した2施設の現況を報告する。

II. 中国の高齢化

2015年現在、中国の65歳以上(高齢者)人口はおよそ1億4千万人で、中国総人口の10.1%を占めているという。WHOの基準では、「高齢社会に近い高齢化社会」に属している。中国の高齢者の人口は日本の総人口よりも多く、しかも高齢化が急速に進みはじめており、対応が急がれているが、大国のため思うように捗っていないのが現状のようである。中国の都市と農村、南と北、東と西、高所得者と低所得者、それぞれの事情が大きく異なっている為だが、近年は特に農村から都市への人口移動により農村部の高齢化が著し

く、社会問題化しつつある。

III. 調査対象施設の位置

調査対象施設の位置は〈図-1〉〈図-2〉のとおりである。

広州市は、中国広東省に位置する副省級市で、広東省人民政府が置かれる省都である。松鶴養老院はその都心部、恩慈基督教護老院は郊外にある。



〈図-1〉広東省と広州市の位置

〈図-2〉広州市と施設の位置

IV. 松鶴養老院

松鶴養老院は、民営^{注1}の老人福祉施設である。広州市海珠区(コウシュウシ カイジュク)にある。敷地の広さは約2.8万2.8万㎡、建物は、RC3階建て、総床面積1.9万㎡、800床の広州市最大級の高級施設である。現代的な設備を備え、訓練されたスタッフにより運営されている。リハビリ、身体運動療法などの医療的配慮はもとより、入所者の福利厚生に関する配慮も充実している。将棋、書道、読書などの趣味に対する配慮やパソコン、手工芸のサークル活動も行われている。

許 達* XUDA*
内藤 和彦** NAITO KAZUHIKO**

Graduate Student , Constructional Engineering
Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Chubu Univ., Dr. Eng

1. 建物と庭

i. 建物

○居室(個室)空間

- ・居室については、3階の女性入所者の部屋を見学した。広さ27㎡の二人部屋で、入所者からは、「この部屋では老人福祉施設特有の匂いを感じない」という感想を得た。
- ・浴室(トイレ)は居室に隣接している。中国南部では、浴槽に浸かる習慣がなく、シャワーのみで、便器は同室内に設置されている。シャワーベンチがあり、補助用の手すりを設けている。自立できる入居者は自分で入浴し、自立できない入居者は介護サービスを受けることができる。
- ・収納については、ベッドの隣に収納棚があり、棚には、置時計、コップ、扇子、ティッシュ、薬等が置いてあった。
- ・備品等については、カラーテレビ、電話、エアコンなどの他、緊急通報装置が設置され、また、日本とは異なり、広州市の水質の関係で、ウォーターサーバーが置かれていた。木製家具をおき、医療機関を思わせない、着きのある雰囲気を作っていた。

○共用空間

- ・集会室(図-3)は、1階にあり、面積は255㎡で、多人数での使用が可能である。

毎週、歌のサークル活動をしており、粵劇(エツゲキ)や踊りなどの慰問もある。

- ・食堂は、60㎡の広さで、36人を収容できる。中国では、食事の時間は決まっていないが、朝、昼、夜の食事は施設から定時に提供される。入居者は自分の意志によって、必ずしも食堂で食事するとは限らない。
- ・休憩室(図-4)は、50㎡で30人を収容することができる。一階の休憩室は人気があり、高齢者が最も多くの時間を過ごす場所である。テレビや新聞を読み、昔の事を親友と話すなどして過ごしている。入所者の1日の楽しみになっている。休憩室のデザインは開放的で、周辺の木や花と一体感を持たせ、温かい雰囲気になるよう配慮されている。
- ・廊下(図-5)は、幅2.1mで車椅子のすれ違いができるよう考慮されている。建物内は、高齢者が行動する場所には手すりを、段差がある所にはスロープを設置することを原則としている。

○ 医療空間

- ・松鶴養老院の場合は医療室とリハビリ室を設けており、入所高齢者の健康状況に応じた介護や医療などのサービスを提供している。また、医師が毎週施設に赴き、健康診断と健康相談を行っている。

ii 庭

広大な面積の庭(図-6)を設けることは、中国の高級養老院の特徴である。休憩場所や体を鍛える場所として役に立っている。松鶴養老院の庭は中国の「嶺南風(リョウナンフウ)」の庭であり、緑のスペースは敷地の40%を占め、快適な雰囲気を醸し出している。

V. 恩慈基督教護老院

本施設も民営^{注1}で、広州市花都区(コウシュウシ カトク)にある(図-7)。敷地の広さは約9,000㎡、RC5階建て、総床面積6,000㎡、201床の郊外型一般入居者向けの施設である。1階はロビー、従業員食堂、事務室を設けており、2・3階には一般入居者の部屋。4・5階は重患入居者の部屋がある。

この施設の特徴の一つはキリスト教団が経営している点で、布教活動の一環でもあり、入所料金は他の福祉施設よりもかなり安い。もう一つの特徴は、生活自立困難者を主たる受け入れ対象としている点である。

入居者の条件としては、広州市に在籍する60歳以上の高齢者であれば、入居できる。(中国では、60歳以上を高齢者と定義している。)また、広州市に戸籍のない高齢者については、300円の追加料金を払えば、入居できる。

1建物と庭

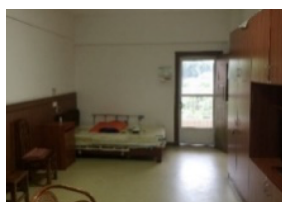
i 建物

○居室(個室)空間

- ・居室(図-9)のスペースは広く、電話、エアコン、個人用シャワールームが設置されている。居室の腰壁は白いタイル張り、上部は白の塗り壁になっている。また、廊下側の壁には窓が設けられており、スタッフが居室の中を常に観察できるようにしている。
- ・浴室にはシャワー、トイレ、洗面台がある。浴室内の入浴設備は、シャワーのみとなっている。本施設の入居者の多くは、自立できないので、入浴時は介護者が補助している。
- ・収納家具はベッドの横側に1つずつ設置されていた。入



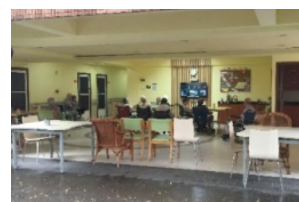
〈図-1〉松鶴養老院正門



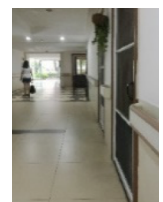
〈図-2〉二人部屋



〈図-3〉集会室



〈図-4〉休憩室



〈図-5〉廊下

居者の私物は整理されておらず、雑然としていた。

○共用空間

・食堂(図-10)は1・2・3階にある。1階の食堂はスタッフのみが使用し、2、3階の食堂は入居者用である。朝、昼、夜の食事は施設から定時に提供される。

・廊下の手すりは、1階がスタッフ専用の為、設置していない。2、3階は入居者が使用する為、設置されていた。

・階段については、中国では一般的な仕様だが、段板部分に磁器タイルを使用しており、水に濡れると滑りやすい。この階段はスタッフのみが使用している。

高齢者は専らエレベーターを使用することになっており、高齢者向けの配慮は不要とのことであった。

○医療空間

・建物の1階は医務室に使われている。入居者を対象にしており、医療、リハビリ、心理治療などが行われていた。

ii 庭

主な入所者は自立困難者であるため、事実上、入所者の利用はない。

VI. 施設利用料金

松鶴養老院の利用料金はベッドの使用料、食事代、サービス料と施設使用料で構成される。入居者は介護が必要な場合、介護レベルに基づいてサービス料が加算される。

松鶴養老院は高級民営施設として、他施設より良好なサービスを提供しており、かなり高い料金設定がされている。

又、恩慈基督教護老院の利用料金は松鶴養老院のほぼ半額以下の設定である。従って入居者の質も異なっている。

自立できる高齢者で、二人部屋に入居した場合を想定すると、それぞれの施設で毎月払う料金は(表-3)のようになる。

2015年の広州市民の平均月収^{注3}は6,911元(約106,600円)であり、松鶴養老院は平均月収とほぼ同額であるのに対して恩慈基督教護老院ではその半額となっている。

後者が安価とはいえ、一般家庭での負担はかなり厳しいといってもよい。

VII. おわりに

広州市内の2施設を比較すると、次のようになる。

松鶴養老院は、都心部の高所得者向け施設であり、良好な施設内容とサービスを提供している。それに対して恩慈基督教護老院は、郊外にあって、一般の入所者を対象とした

〈表-1: 松鶴養老院の利用料金表〉

基本 料金 (月 毎)	ベッドの使用料金		料理	サービスの料理	生活施設使用料			
					一年	三年	五年	終身
	四人の部屋	1,100	800	360	11,100	27,300	38,000	41,700
	三人の部屋	1,200			13,500	31,400	42,700	46,500
	二人の部屋(小)	1,700			21,300	49,100	57,900	65,500
	二人の部屋(大)	1,900			25,100	54,200	66,800	71,900
	個室	3,000			41,100	94,600	113,600	124,000
介護レベル				高級	認知症	特養		
三級	二級	介護レベル						

〈表-2: 恩慈基督教護老院の利用料金表〉

項目	一人の部屋	二人の部屋	三/四人の部屋	医療料金	紙おむつ	エアコン
入居時に払う料金	施設使用料(一回)	9,500	9,000	8,000	1) 毎月実際に発生する費用	1) 食費30元
医療料金	特養	3,000	3,000	3,000	2) 交換費50元	2) 居室(実際に発生する費用)
介護料金	二級A	2,200	1,950	1,700		
	二級B	1,750	1,500	1,350		
	二級C	1,550	1,300	1,150		
	二級	1,300	1,100	900		
	三級	1,050	850	650		
ベッドの費用		1,000	700	550		
食事の料金			500			

〈表-3: 二人部屋に入居した場合の料金〉

施設名	二人部屋の料金(月)	食事代	入所料金「終身使用料を5年(60月)」	その他	合計(元)	日本円
松鶴養老院	1,700	800	1,091	360	3,951	60,969
恩慈基督教護老院	1,100	500	150	30(実際に発生する費用)	1,780	24,450

施設である。使用料金も低く、施設内容、サービスも相応なものとなっている。

また、日本の施設と対比した場合、特に以下の3つの相違点を指摘することが出来る。

- ① 中国(広州)では、浴槽に浸かる習慣はなく、シャワーのみの使用ですます。
- ② 日本人のプライバシーを守ろうとする意識は強いが、中国人のそれは比較的弱い。
- ③ 中国(広州)では、食事の時間、場所は必ずしも定まっていない。

調査の結果、段差の解消、手すりの取り付けなどの建築的解決策の研究・実践については中国でも有効である。しかし、①～③に示したような地理的環境や生活習慣に関連する事柄については、当該地における詳細な研究の補足が必要であることが分かった。

今後は日本と中国の高齢者福祉施設の事例研究をベースに日本の研究成果の中で世界に通用するものとして、いものを区分し、各国に適合する方法をより具体的に提示したいと考えている。

【注】

注1: 民間企業。昔、中国で主な会社は国営である。経済の発展に従って、中国民間企業が増えており、民営という言葉が生ずる。

注2: 「南方人才網(ナンホウジンサイコウ)」の調査報告書による。



〈図-6〉庭



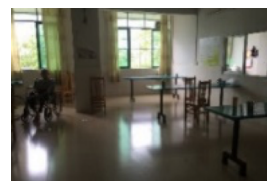
〈図-7〉恩慈基督教護老院



〈図-8〉ロビー



〈図-9〉二人部屋



〈図-10〉食堂